

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202197		
法人名	(有)シャローム		
事業所名	グループホーム 希望の家 広田		
所在地	長崎県佐世保市広田3丁目9番1号		
自己評価作成日	平成24年9月8日	評価結果市町村受理日	平成24年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成24年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・大豆食品や野菜・海藻・芋類を中心とする食事を目指し、成人病にならない工夫をしている。 ※血液がさらさらになる食生活</p> <p>・東翔高校や三幸福祉カレッジ・ニチイ・こころ医療福祉専門学校・ルリ総合学園等の実習場として、次世代の介護を担う若者達の育成に力を注いでいる。</p> <p>・高齢者に対して尊厳の気持ちで接し、(入居者が主役・スタッフは脇役)の精神で(温かい思いやりのある介護を)目標に運営理念である(夕暮れ時にも輝く人生)を大切に過ごしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は住宅街の中にあり、歩いていける距離に公園、大型スーパー、病院等があり利用者や訪問者にとって便利な場所に位置している。日当たりの良いホームの窓からは、心地よい光が差し込み暖かい雰囲気となっている。利用者の楽しみである食事は穀類を中心に野菜、果物、豆、芋、海藻等バランスの取れた食材で、利用者も手伝いながら調理しており、職員と一緒に食卓を囲み、和やかな食事の時間となっている。事業所は複数の学校から実習生を受け入れ、若い人材の育成に力を入れて地域に貢献している。「夕暮れ時にも輝く人生」との理念を基に自分らしく穏やかで尊厳のある生活ができるよう管理者を中心に職員一人一人が思いやりのある支援に取り組んでいる事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を揚げ、理念に沿った読み物を読み、共有している	職員は、毎日の朝礼時に理念である「夕暮れ時にも輝く人生」、介護目標の「温かい思いやりのある介護」を確認し合い、その心を共有し利用者への支援に繋げている。新人には入社時に説明し、理念を理解するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会(地域)へ積極的に参加している	自治会に加入し、自治会役員、民生委員の協力を得て地域との繋がりを深めている。ホーム前は幼稚園の送迎バス停留所でもあり、散歩中の挨拶をはじめ、敬老会や夏祭りにも参加している。また、地域の高校や専門学校から幅広く実習生を受け入れるなど、積極的に交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して下さる地域代表の方々に、認知症の理解を深めて頂いている。支援の声かけも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での要望を職員間(ミーティング等)で話し合い、取り組んでいる。	年に6回奇数月に規定のメンバーで開催している。事業所の現状や報告、行事のビデオ鑑賞、出前講座、時には食事の試食会もあり、参加者からの意見等が話し合われている。その中で、公民館の文化祭に参加できないかとの意見があり、現在検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方が多いので、保護課の方による面会にて話し合いがなされている。	市担当者の2ヶ月に1度の訪問時に利用者の状況について話し合ったり、申請手続き等は支所に向向している。今後、介護相談員の受け入れも検討しており、行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターに出前研修を依頼し受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。標語を作り、唱和している。	身体拘束に関する勉強会を実施し、職員への周知を図っている。玄関は施錠せず自由に入出入り出来るため、黙って出て行く利用者には、職員がさりげなく後ろから見守り支援を行っている。危険防止のため家族の要望でベッド柵の使用を継続している。	家族等から要望や同意がある場合もその弊害を説明し、事業所の工夫や取り組み方針を示し、家族等の納得の上、抑圧感のない暮らしの支援のため、繰り返し話し合いをされることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や講演会へ参加している。		

グループホーム希望の家広田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、社会福祉協議会などの説明会に出席し活用出来るよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を心がけ、納得が得られるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席する家族を増やして、家族の意見や要望を述べやすいようにしている。 面会時に家族の要望を聞くようにしている。	職員は家族の訪問時や電話で気軽に話せる関係作りに努めている。毎月の請求書郵送時には個々に状況等を記入して知らせており、更に2ヶ月毎にホーム便りを同封している。家族等からの要望はミーティングで話し合われ反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見はミーティングで聞くようにしている。 代表者は年に1～2回個人面接をしている。 月に1回管理者会議で職員の意見を述べている。	月1回のスタッフミーティングで職員は話し合っている。また、月1回の主任会議では法人内各事務所でも意見を出して検討を行っている。職員は代表者と年1、2回面談の機会があり意向を話せる仕組みがある。これまでに研修会の実施や資格取得費用の半額負担など意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準については税理士と話し合い、年2回のボーナスと年1回の決算賞与を出している。 向上心を持って楽しく働けるよう、代表者は職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員が4人おり、新人研修・社内研修・社外研修を行っている。また、働きながらヘルパー2級がとれる制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、勉強会や交流会をしている。 東部ブロック会議等に参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確認するための関係づくりに努めている	ご本人を受容して耳を傾ける事で信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入以前に家族と面接して要望に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを含め、最善を一緒に考え情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする同士の人間関係を考慮し、仲良く暮らせるように援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の時は家族に同行して頂き、絆を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問の実践を実行。 本人の希望に沿ったプランを立てるようになっている。	利用者の希望に沿って家族の協力も得ながら、納骨堂参りや帰宅、娘の住まいに外泊するなど支援を行っている。近所の人たちの訪問や、馴染みの商店や美容室へ同行するなど、利用者のこれまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーション・行事・料理の手伝い・掃除の手伝いなどを通して、関わり合いが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了すれば、こちらからは積極的に関係は築いていないが、本人・家族の相談があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向があれば、気づきのノートに記録してケアプランに反映出来るように努めている。	一人ひとりの意向は、利用者同士の話や散歩中に職員と1対1になった時、時にはリビングで寄り添いながら利用者の意向を受容し、気づきノートに記録し職員間で共有している。表現が不自由な利用者には表情や小さな動作からも気持ちを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人と面接し、生活歴やサービス利用の経過等を把握し早めに情報提供を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーションや役割を通して本人の力量や心身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	十分に検討してプランを立てている。	介護計画は利用者、家族等の希望や目標を直接聞き作成しており、モニタリングも毎月行われている。ただし、日々の利用者の様子や記録などが反映されているかは不明であり、介護計画書の内容と職員が日々実践している支援内容との連動がない。また、家族等の同意欄の記入もれがある。	介護計画書は日々の支援と連動するべきものであり、実践記録は見直し時に活用されPDCAが行われることが望まれる。介護計画書が具体的な支援の基本であることが職員間で共通認識され、家族も含め利用者を取り巻く人々に理解される取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイル・申し送り帳等を利用して、職員間の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて住宅型有料老人ホームや、小規模多機能を紹介している。		

グループホーム希望の家広田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会等には積極的に参加し、地域の人々と交流を持っているが、まだ十分に地域資源を把握していない現況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態にいつも注意し、異常がある場合にはかかりつけ医に連絡し、適切な処置が受けられるようにしている。 家族同伴での受診の情報を得ている。	家族の希望を第一に考え、かかりつけ医を継続している。受診の同行は基本的には家族であるが、場合によっては職員が対応している。往診や夜間は協力医の体制が整っている。受診前後は必ず家族に報告している。家族が同行した場合も受診結果の報告があり、共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携は取れている。 全て看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院するときは付き添い、病院関係者と情報交換している。早期に退院出来るよう時々面会に行き、医師・看護師との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの症例があれば積極的に取り組みたい。その為の勉強会をした。	これまでに看取りの実例はないが、契約時に家族の希望に沿って、事務所でターミナルケアや病院への入院など選択できることを説明している。更に段階を追って家族と協議している。職員はターミナルケアの内部研修を受講しており、協力医も含め体制を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習会への参加。 初期対応の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が身に付けているとは言えないが、年に2回救急法や災害対策について指導をしてもらっている。	消防署立ち合いによる避難訓練は年2回実施している。夜間想定での訓練も実施しており、緊急連絡網には地域住民も入っている。地域での防火訓練に参加したい旨を伝えており、地域との協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼時に話合ったり毎日その方の思いに寄り添えるよう努めている。	利用者の尊厳を重視し、敬語で話すよう心掛けている。失禁時にはさりげなく誘導し、プライドを傷つけないよう配慮した支援を行っている。職員会議では利用者名は出さず、他の利用者に気づかれないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に従って庭掃除や、早朝からの畑仕事をしたいとの願いに叶うように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションでは、一人一人の希望を聞き集中出来る時間を考えながら、その人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自分で選べるようにし、散髪は職員がしたり美容院に行ったりしている。 敬老会・夏祭りなどではしっかりオシャレが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	牛蒡削ぎやゴマ擦り等出来ることは手伝って頂いたり、白和えなどの味付けを利用者にして頂いている。	献立は希望を訊いて反映している。下ごしらえは利用者にもお願いすることで調理を楽しむ支援を行っている。食事は気の合う人同士が並び、職員も一緒に食卓を囲んで同じ献立で食事している。また、外食や季節感のある献立など利用者が食事を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給に気を付け、水分量をチェックしている 栄養摂取は野菜・大豆食品・海藻・芋類等を中心に常食・粥食・刻み食等で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎予防の為、毎食後の口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表によって、パターンを見ながら支援している。 日中は布パンツ・夜間はリハビリパンツを使用している。	介護度の低い利用者は、ほぼ布パンツを使用している。トイレ介助が必要な利用者はリハビリパンツを使用しており、夜間、ポータブルトイレの利用もある。生活チェック表に排泄チェックを行い、把握し支援に役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維のある食材を用いたり、水分摂取量に注意している。個々の排便状況を知り、下剤を使用したり運動の働きかけを行ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	パターンは決まっているが、希望やタイミングによっては変更している。	週3回、午前中を目安に入浴支援を行っている。車椅子利用の方は基本的にはシャワー浴であり、利用者の希望に沿って同性介助も対応している。拒否がある場合には、トイレ誘導のついでに入浴を促すなど工夫している。季節にはしょうぶ湯、ゆず湯もあり入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の温度に気を付け暑すぎず、寒すぎず安眠出来るように努めている。 昼食後は午睡が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用に注意し、必要があれば主治医と相談し薬の量を減らしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いの役割を持って頂いたり、合同行事や土曜日の集会出席で気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーに買い物に行くときは、希望者を募って一緒に出掛けるようにしている。 花見や合同行事では外出支援をしている。	本人の希望に沿って近くのスーパーに散歩しながら出かけている。病院受診や買い物のついでにドライブしたり、午前中に外気浴を兼ねて敷地内でお茶を楽しむこともある。年5回は花見や行事で出かけており、利用者の気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は100円均一やスーパーへ行き、自分でお金を払って買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る人は自ら電話をしたり、手紙を書いて自分の状況を知らせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音が刺激にならないように時間帯でつけている。 リビングルームのレイアウトは季節感を出すように工夫している。	玄関脇の花壇には季節の草花が咲いており、リビングにも季節のちぎり絵を飾っている。朝から換気を行っており気になる臭気はない。掃除は毎朝利用者と一緒に行っている。食事の時にはテレビを消して、会話を楽しむなど居心地のいい空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームが狭い為、一人になる居場所を作るのは難しいが気の合った者同士が気持ちよく過ごせるように席替えをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望に応じて仏壇を置いたり、自宅から家具を持ってきている。	利用者に馴染みのある仏壇や椅子、写真などを配している。掃除ができる利用者は自身で行っており、職員がサポートしている。ポータブルトイレは使用后洗浄しており、臭気もなく快適な空間となっている。温度管理は職員が行い、冬場は臭気取りを置くなど配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所が分かる様に、表示をし迷う事のないように支援している。		